

こころの玉手箱 1月号



「守い続けられてきた海岸」

今では香川県を代表する観光地となった父母ヶ浜。しかし、25年前には、製造工場誘致のための、埋め立て計画があった。そこで、海岸を守るべく、動き出した3人の同級生の話から、これからの自分たちに何ができるかを考えました。



☆ 1年生 ☆

- ☆ 今の父母ヶ浜があるのは、小さな努力からできていたということを知って驚きました。また、それが昔からずっと続いていることにも驚きました。自分も、これから積極的にボランティアに参加していきたいと思います。
- ☆ 美しい海と海岸を守るために掃除をして、そのあきらめない気持ちがすごいと思いました。僕も、お金より価値がある美しい詫間町にしていきたいと思いました。
- ☆ 今まで父母ヶ浜はただのきれいな海と思っていたけれど、こんな苦勞があって今の父母ヶ浜があるんだと思い、驚きました。自然にゴミが落ちていたら自主的に拾いたいです。
- ☆ きれいな景色は、守っていかなければなくなってしまうので、少しでも協力して、未来に残していきたいです。

☆ 2年生 ☆

- ☆ 自分たちが知る美しい景色や数人しか知らない景色でも、美しく壊してはいけないものがあると知った。僕も山の上から見る詫間はいつもと違いきれいだと思ったことがある。だから壊してはいけないと感じた。
- ☆ 詫間町の紫雲出山から見る瀬戸内海やそこに浮かぶ島々の風景を守っていきたくと思いました。きれいな景色はお金を超える価値があるので、ゴミを捨てずに清掃活動などに参加して守りたいです。
- ☆ 自分が住んでいる大浜も海が汚れていて、お父さんを中心に清掃ボランティアが行われている。だから、もっと自分から参加しようと思った。また、ランニング中よく犬のフンを見るので、放っておかずに自分から拾っていきたい。

☆ 3年生 ☆

- ☆ 今の美しい海があるのは、強い思いをもって頑張り続けてきた人たちがいるからなんだと思いました。詫間にも海があるので、学校から見えるきれいな海を私たちが守り続けたいです。
- ☆ 継続することは大切だと思った。昔の人が掃除をしていなかったら、今のきれいな海はなかったということがわかった。きれいなのは当たり前だと思わないようにしたい。
- ☆ 7人から始まった浜を守りたいという清掃活動が、埋め立てをなくし今に受け継がれているというのはすごいことだと思った。私は、紫雲出山からの風景を未来に残したいと思いました。
- ☆ 子供も大人も老人も全員が協力したからこそ、今のきれいな父母ヶ浜があるんだなと思った。私も自分たちの町や市を守っていきたくと思う。

保護者の皆さんへ

お子様と意見を交換して、感想などをお気軽にお寄せください。

----- 切り取り線 -----

保護者返信欄 (お子さんを通じて担任までお渡し下さい。)

守り続けられてきた海岸

海洋プラスチックゴミが世界的な環境問題として話題になり、カラフルなゴミに無残に彩られた海岸のニュースや、誤飲してしまった海洋生物の画像を目にする機会も多くなっている。そんな中、「瀬戸内海のウユニ塩湖」と呼ばれ、インスタ映えする絶景ポイントとして知られる仁尾町の父母ヶ浜は、なぜその美しさを保ってこられたのだろうか。

父母ヶ浜に漂流ゴミがないわけではない。海岸を清掃し、守り続けて来た先人の存在があつてのことだ。

「ちちぶの会」は今から25年ほど前の1996年2月8日に、地元の有志7人が集い、海岸の清掃を開始した。中心的人物は、元漁師の鴨田さん、町の職員だった塩田さん、地元で建設業を営む菅さんの同級生3人組だ。当時は地方活性化策として製造工場の誘致合戦が行われており、父母ヶ浜も例外ではなかった。

「埋め立ての話が出た時、この美しい海と海岸を守りたい、何か事をおこさねば！と思って始めたのが海岸の掃除だった。相手が行政だろうと誰だろうと、我々の思いはこうなのだ！と強い思いをもって始めた。と菅さんは語る。菅さんは、町長のもとに一人で乗り込み、夜中の1時過ぎまで説得したこともあるという。」その時の町長は、「工場誘致は親父の代からの夢だった。」と言ったが、「一度埋め立ててしまつたら、もう二度と元の姿には戻らない。魚も捕れなくなる。やるならわしらを埋めてからやれ！」と言い返したという。

業者も決まり工事関係者が集まってくる中、表立った反対運動ではなく、『ささやかな抵抗』として海岸清掃を開始した。

当時の父母ヶ浜は一面ゴミの山だった。一人協力してくれる人が増えただけでも嬉しかった。それが10人、20人と増え、10年、20年かかってようやく今のきれいな姿になった。継続は力なり。それに尽きると菅さんは振り返る。

埋め立ての計画書も完成図もできていた。だから本当に計画が止まるとは思っていなかった。きれいな海をみんなに見てもらえたら、地域の人でも理解してくれると信じていた。

埋め立てられたら雇用を生み、お金を生むといわれたけれど、こんなにきれいな景色は何千億円、何兆円あつたって作れない。お金を超える価値がある。こうした問題は未来にも必ず起きる。代々この良さを引き継ぐ人、この戦いの歴史や想いを受け継ぐ人を育成していかないといけない。そして、お金よりも価値があるものがあるということここから全国に発信していきたいと話す。

この清掃活動は、今でも毎月欠かさずことなく小学生から90歳近くまでの多くの方が参加し、続けられている。

保護者からの声 『母の涙』

- 親は皆、子供のためを思って注意したり叱ったりします。それは、社会に出て、困らないためです。「うるさいなあ・・・」って思うよね？お母さんも子どもの頃はそう思っていました。年を重ねるうちに叱られることは少なくなってきました。叱られているうちが花です！！
- 読み始めるとすぐに涙が溢れました。娘さん以上にお母さんは悲しみを乗り越えていたのです。母が娘を想う深い愛情と重い責任。合唱の「親知らず 子知らず」の歌詞が思い出されました。子育てをしながら自分自身の親の気持ちも少しずつ理解することができています。